



孤独・孤立対策の充実について

公明党 日吉 弘子

問 長引くコロナ禍の影響で孤独・孤立が深刻化している中、ヤングケアラー対策が重要であり、認知度向上の取り組みをしていただきたいと思いますが見解を伺います。

答 (保健福祉部長) ……昨年9月にヤングケアラー支援対応連絡会を設置し、関係者を対象に研修会およびパネル展など周知啓発事業を行い、さらに実態調査を実施しました。今年度もパネル展などの実施を予定しており、来場者に対しアンケートを実施し周知するとともに実態把握に努めていきたいと考えております。

答 (教育部参事) ……実態調査の対象を前回の全中学生から、小学5・6年生までに広げ、より正確な全体把握を行い適切な支援策について検討を実施していきます。

問 ヤングケアラーの相談窓口を設置していただきたいと思いますが見解を伺います。

答 (保健福祉部長) ……ヤングケアラー支援は子どもに寄り添い解決していくことが大切なので相談支援は極めて重要です。相談支援のあり方は連絡会で検討していきます。

問 発見から支援につなげるため関係機関との円滑な連携が必要であると考えますが見解を伺います。

答 (保健福祉部長) ……ヤングケアラーと思われる子どもの存在に気付いた場合、子どもの権利が侵害されていないかを家族の状況やケアの実態などに基づいて判断するため、判断基準が必要になると考えています。調査の中でも、お手伝いとヤングケアラーの判別が難しいとの意見が多く寄せられました。今後、連絡会において、アセスメントシートの作成などの取り組みを進め、その活用方法を含めた周知啓発を図っていきたいと考えています。

その他の質問

・ 教育行政について



子どものマスクについて 中新田丸田地区のまちづくりについて

志政会 永井 浩介

問 6月時点で、保護者が部活動を観戦できないという話を聞いています。大人も屋外などでマスクを外すことが促されていることを鑑み、観戦できるようにすべきと考えますが見解を伺います。

答 (教育部参事) ……さまざまな状況を鑑みて学校の新しい生活様式ガイドラインを改定しており、部活動も感染レベルをレベル1としています。また、6月時点で市の中学校体育連盟では、市の大会は感染症対策を講じた上で、保護者の観戦を認める方向で検討しています。また、県大会以上は、中学校体育連盟の判断を待っているところです。

問 マスクで表情が読み取れないことによるコミュニケーション不足などが専門家から指摘されています。子どもの大切な時期にコミュニケーション能力を伸ばすためにも、対応を変えるべきと考えますが見解を伺います。

答 (教育長) ……6月時点のガイドラインでは、原則、マスクを着用して学校教育活動することとしています。かなりコンセンサスが必要ですが、どこかの時期でガイドラインの転換ができないかと考えています。

問 中新田丸田地区は、西側の隣接する団地と水路で分断されていますが、子どもの安全面などを考えると水路に蓋をすべきと考えます。減歩率にも関わりますが、区画整理の中で整備することについて、市の考えを伺います。

答 (まちづくり部専任参事) ……水路の暗渠化を検討するにあたっては、まちづくりに資する効果や工事手法、費用面などの負担も重要なテーマになると思います。水路整備を組合事業に含めるか、別の事業として分けるべきかなど、組合の事業費の精査や国費の活用も踏まえつつ、費用対効果も意識した検討を進めたいと考えています。

その他の質問

・ 子どもたちを取り巻く環境について
・ 国分寺台地域について



学校教育現場における新たな課題への取り組みについて

立憲民主えびな 黒田 ミホ

問 学校における児童生徒のマスク着用について、国の方針変更を教育委員会としてどのように受け止めているのか、また、今後どのように学校教育現場で周知啓発していくのか、現状の課題と方向性を伺います。

答 (教育担当理事) ……児童生徒のマスク着用については、これまでも学校の新しい生活様式ガイドラインに示してきましたが、5月23日付の教育長メッセージで、登下校時についてもマスクを外すことを可としました。それ以外のマスクの着用については、社会情勢を見極め、今後、市としての方向性を示したいと考えています。

問 登下校時以外のマスク着用について、方向性を検討するスケジュール感を伺います。

答 (教育部参事) ……現在は感染状況が落ち着いていることで文部科学省からマスク着用の緩和が示され、それに基づいてガイドラインを改定しました。教育委員会は、6月7日に地域の感染レベルをレベル1相当とし、保護者や市民に広く周知しました。改定したガイドラインでは、コロナによる学級閉鎖などの措置を講じた学校はその期間はレベル2とし、各校の感染状況に応じて柔軟に対応するものとなりました。今後も国や県の判断により進めてまいります。

問 これから暑い夏を迎える中、感染症対策と熱中症予防の両立は、なかなか難しいと思いますが見解を伺います。

答 (教育部参事) ……今後、熱中症が心配されるため、ガイドラインでは、特に自分の判断で外すことが難しい児童は、屋外ではマスクを外すよう積極的に指導するようにしており、その際には、人との距離の確保や会話を控えることも併せて指導する必要があります。基本的な感染症対策をしっかり踏まえながら、熱中症予防に努めてまいります。

その他の質問

・ 選挙における投票率向上および若者の政治参加への取り組みについて